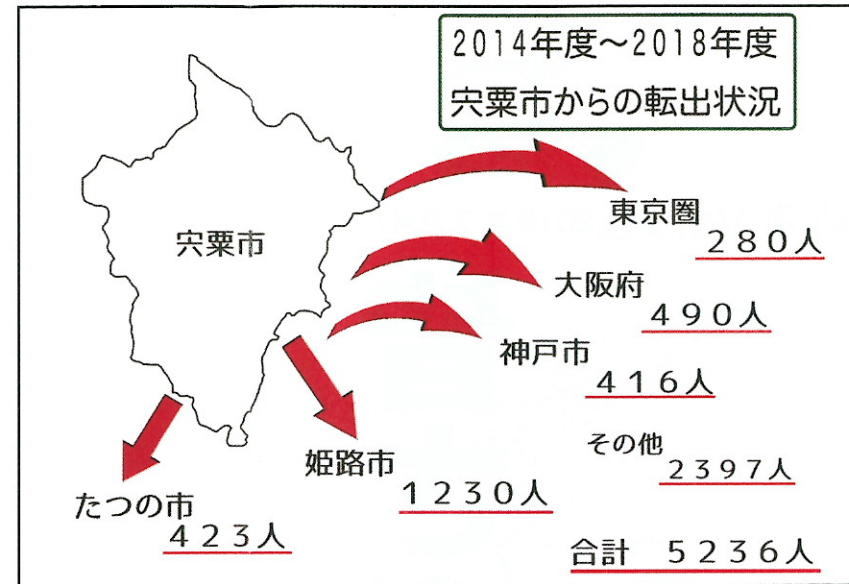


2014年度～2018年度(5年間)

年齢区分	転入 市外から宍粟市へ		転出 宍粟市から市外へ		差引人数 (転入－転出)
	転入者数(人)	割合	転出者数(人)	割合	
20歳未満	638	18.6%	991	18.9%	-353
20歳～39歳	1,926	56.3%	3,152	60.2%	-1,226
40歳～59歳	531	15.5%	672	12.8%	-141
60歳～79歳	257	7.5%	263	5.0%	-6
80歳以上	72	2.1%	158	3.0%	-86
合計	3,424	100.0%	5,236	100.0%	-1,812

また、宍粟市からの主な転出先は、姫路市・たつの市など近隣都市地域となっており、転出された方の年齢層を見ますと39歳以下が、全体の約八割を占めています。若者・子育て世代の方が、姫路市などへ転出されている様子が、統計からも明らかになっています。



若者・子育て世代の声に応えた
行政施策を
2014年度から2018年度の5年間で、宍粟市から市外に転出された方が、5236人。
毎年千人以上が市外に転出されています。つまり5年間で、1812人の転出超過となっています。

子育て世代がずっと住みたい宍粟市に！

6月本会議で大久保陽一が質問



答弁 副市長
関係近隣市町と調整のうえ、運営事業者とも協議し働きかけていきたい。
若者・子育て世代に宍粟市ならではの住宅施策を！

質問 大久保陽一
若者・子育て世代の人々が住宅を求めるさい、姫路市などの近隣市町でなく宍粟市内で住宅を取得しやすい環境整備が必要だと考えます。官民一体となった庭付きの割安感あふれる宍粟市版住宅地分譲を行われないか。

答弁 福元市長
未利用の公有財産を若者の住宅用地として売却を始めた。今後、官民一体となつて業界との共通理解の上で進めることが大切である。

週2回の可燃ごみ収集を！

質問 大久保陽一
2016年に市が行った「子育て応援・住環境整備に係る意識調査」において、週2回の可燃ごみ収集を求める声が多くあります。早急に実施されたい。

答弁 市民生活部長
本年度、多くの市民の意見を伺い判断していきたい。

定年帰郷システムの構築を！

質問 大久保陽一
定年まで或いはその近くまでは大都会で会社勤めをし、子育てもそこで済ませた方が、その後故郷(宍粟市)に帰つてこれるシステムを構築してはどうか。

答弁 福元市長
宍粟市を離れた方に帰つて来て欲しい。どういった形が良いのか研究を行つていきたい。また、都市部にいる方々へのアプローチの方法なども研究していきたい。

質問 大久保陽一
子育て環境を充実させるため、近隣市同様「児童館」を設置されたい。
答弁 健康福祉部長
「児童館」については、子育て環境の充実に向け引き続き研究を続けていきたい。

通勤通学の利便性向上へ！

質問 大久保陽一
公共交通機関の充実に向け、他市町(例えば姫路駅や姫新線新宮駅)と宍粟市を結ぶバスの増便を図られたい。

